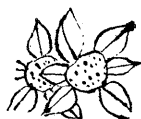


# 幼稚園の一日

## 〈先生の指導の記録〉



### お茶の水女子大学附属幼稚園

幼稚園で今日は一日実際にどのような指導をするのだろうか。私もは頭の中ではこうしたらよいとわかっているけれども具体的なことになると戸まどうことが多いのです。この記録は一人のすぐれた先生の指導を時間を追って観察記録したものです。子どもの記録が十分なのでわかりにくくなっていますが、先生のしたことや言ったことは紙面の許すかぎりこまかく記してあります。たんねんに研究していただきたいと思います。

なお、記録の後にこの指導の背後にある考えを記してありますから御参照ください。

この幼稚園には、三才児から五才児クラスまでの六クラスある。この先生のクラスは、二年保育と三年保育の五才児約四十名である。

保育は自由遊びを中心にして、先生は其中で子どもと深く交わり、活潑に遊びを展開させようとする努力が感じられる。記録からもわかるように、自主的に活動している子どもを相手に、あちこちに注目しつつ、援助を与えて、より発展させようと、常に動きまわる先生により、自由遊びを通しての保育が円滑に行なわれている。記録をとった日は、夏休みが終って十日目で、実習生三人がいたので、先生の行動は平日とは幾分変わっているかもしれないが、大きな違いはないと思う。

子どもの遊びは、室内では、箱積木を使っているままごと、ままごとと道具を使っているままごと、おはじき遊びが中心で、それに平行して墨絵書きがされていた。外では、砂遊びや鉄棒、つり輪、すべり台などを使っている遊びとおにごっこがされた。磁石を用いている遊びは室内外ともにされていた。

時分 T 先生 C 子ども

9・5 画用紙をたたみつつ子どもと磁石の話。(※馬てい形磁石や、棒磁石がいくつか箱に入ったものがあり、自由に使えるようになってる。)

T「お砂の所へ行つてやるといろいろなのがある。」

6 C「これね時計を持っていてる人の所に置くと針が一しょになる。子ども同志で互に話し合う。父兄が来たのでそちらに行き話をする。途中時々子どもの方に気を配る。墨絵を書く子ども達(五、六人)の机の所に行き、子どもの絵をほほえみつつ見る。T「これちょっと濃いわね、少しね、ちょっと待ってね。」墨を少しくすくする。

10 子ども書いた絵を目のあたる所に持つて行きほす。子どもが籠を持つて来る。籠の中の袋からおはじきを出す。箱積木を積んで家を作り、ままごとをしてる数人の女兒に対して、T「いつもあなたがたきたないおうちでしょ。きれいなおうちにしてちょうだいね。部屋の間を片づける。書き終つた子の墨絵に名前を書く。母親との話。子どもの絵を見つつ歩く。T「これ誰のだったかしら。」名前を書く。部屋の中を見まわし片づけて歩く。窓の方に行き、外で遊んでいる子ども達を見る。子どもとの会話。登園して来た子の(※父母が子どもをおくり部屋まで来ることがたびたびあり、後にもその父母との会話がある。母親と話し、植木鉢を受け取り部屋の隅に持つて行く。戸棚の中をさがしおはじきを出し、箱に入れながら子どもと会話。絵を目のあたる所へ持つて行く。T「○ちゃんぬるのがあつてもいいけどぬらないのがあつてもいいのよ。みんな

17 真つ黒じゃ。白いと……○ちゃんいいじゃない。ああいうふうに書くといいわね。」外で遊ぶ子どもを見に行くが、すぐ部屋にもどつて来て、墨絵を書く子どもの方を見る。子どもが紙をもらいに来たので戸棚に行き出してやる。

18 母親との話。紙を切つて子どもに渡す。T「ふでをまっすぐ書くところでしょ。こんどはこんなでしょほらね。こんな筆でね。」教師が紙に書いてみせて筆の使い方を説明。母親が来たので話す。絵の方にもどり名前を書く場所を子どもに説明していると廊下で大きな音がする。ころんだ子どもをその子の部屋までつれて行き先生と話す。廊下で父親との話。子どもの絵をほす。箱積木のままごとの子ども達が工夫して家を作つたのを見て「きれいなおうちね。」と言ひ会話の後 T「何か下さい。」C「今ねお休みな

20 21 22 23 24 25 26  
の。」「お休みな。」「絵の方にもどりT「ぬるのもあつてもいいし、ぬらないのもあつてもいい。」「外の子どもの遊びを見る。子どもが母親からの連絡事項を話し先生は出席簿に折り込んである表に書きこむ。ままごとの子と話をしながら絵をほす。  
T「ああこの筆は真つ黒になるからここへ置いとくましよう。置くところはぶいて。」C「これ(墨のよ)これ」石鹼で落ちる?」T「おちますけどね、いちいちこうすると手がよごれちゃうでしょう。」  
26 画用紙の下の紙を抜けて敷く。筆のよごれをふき、別の筆立てを持つて来る。太い縄の筆を示し「こつちでいいの

よ、これで大きいお花でも何でも。あらあらあれで書くとおもしろいじゃない。○ちゃんいいこと考えたわね。」墨絵の子ども達をほめて励ます。部屋と外の両方を見てから外に出る。磁石を持ってジャングルで、ジャングルに磁石をつけたりして遊ぶ子どもと話し合い。磁石を子どもから借りて下の砂利の中をさがす。「ああ、ついて来た。砂の方はみんなおもしろくつくわね、とんがってつくのよ。」

30 ジャングルで遊ぶ子どもとの会話の後砂場に来る。砂遊びの子に腕まくりをしてあげる。どんなで遊んでいるので「みんなお顔にはねかしちゃう。ね、上手にしてちょうだいね。」部屋に入り絵の方を見る。筆に墨をつけてやり「大丈夫はい。そこでもう一人出来るわ。そこへいらっしやい。書いていない子どもをつれて来て紙を出してやる。C「先生ぼくの当番？」と子どもが来たので紙を出し名簿を見てきりて穴を開けて渡す。子どもと当番表を見に行く。(※毎日男女一人ずつの当番がいる。当番表は子どもが自分で書いたものがさげてあり、帰る前にめくるようになってる。)

35 子どもと話をした後砂場に下りる。子ども達が磁石で遊んでいたのに加わり棒磁石を使って話し合う。他の組の子どもの遊びを見たり砂場の方を見たりする。子どもが当番表を持って来たのを受け取り、見る。子どもの言い合いや女兒グループの遊びの方を見る。前かけのひもを結んでもらいに来た子に結んであげる。当番表の続きを並べる。それをしつづ積木遊びの子が箱積木を三段積んでその上に座っているのを見

て、T「○ちゃん落ちないで高いから。」と注意を与える。

40 当番表をそろえつつ「○ちゃん、ピアノノ一生懸命にやっているわね。」(※自由遊びの時に、ピアノを子どもが弾いてもよいことになっている。)と言いいりポンを穴に通す。通しつづも周囲のグループに気をくばる。出来上った墨絵を見て「あらいっぱいいろいろ書いたのね。」と言いい名前を書いておく。人形の洋服がほつれているのを子どもから受けとる。自分の名前を間違って書いた子に教える。洋服にピンでひもを通す。戸棚に針箱を取りに行き廊下のをぞく。針箱を持ったまままごど遊びを見る。座って洋服をなおす。

45 磁石を針につけている子を見ながら仕事を続ける。C「先生お山へ行っている子を見ながら仕事を続ける。C「先との話し合い。C「先生長い虫いたよ。足の長い虫。」T「はぢぢやないの？」C「うん」針箱の中からボタンをさがし出す。子どもはそれを磁石につけてみる。T「これはどうかしらね。」とホックを出す。T「これは？安全ピンなの。」と渡す。子どもは次々に磁石につけてみる。

48 出来上った洋服を持ち子ども達の所へ行き「ごめん下さいませ。洋服出来上りました。」と渡し、針箱を片づける。ままごとの子ども達と話をしつづ部屋中のいくつかのグループの遊びを見る。砂遊びの子ども達に「今日どうしても一枚書いてほしいの、いいと思う時にまだの方言って下さいね。」ときそい数人を絵の方に導入する。出来上った絵を整理する。絵をほす。おはじきをしているグループと

- 53 話し合う。絵を見た後ままごの方に行く。ままごと遊びでは、おもちゃの洗濯機のしぼり機でお人形のスカートをしぼろうとするのを見て、T「これは大きなもの出て来るかしらねー、でも出て来るのね、感心。もっと細いものがいいわね。布の細いものがいいわ。」布をさがして持って来て、「はいじやこれ洗って下さいね。」絵を書きたい子が来たので、座席を変えて入れてやる。
- 55 磁石遊びの子に「それはおもしろいですね。」部屋を出て遊戯室の方をまわり外で遊んでいる子ども達を見てまわり部屋にもどる。箱積木の子どもが先生の方に来て、C「〇のお城だもの。そしたら×ちゃんこわしちゃったの。」T「あら。」絵を一枚書き終った子どもが、C「先生もう一枚やりたいんだけど。やりたいなあ。」T「やってもいいわよ。」まだしていない子をも絵にきそう。絵を見つつ重ねる。書きたい子が来すぎて席がなくなる。書けるように準備する。出来た絵を見る。絵の向きを子どもに尋ねる。出来上り、記名する。子ども達を見つつエプロンをなおしてあげる。全部の子どもが墨をつけやすいように「ごめんなさい。」と紙を動かす。紙をなおし、机の上を整理する。手を洗う。墨絵の為の用紙のりづけを手伝う。紙はり続く。机の整理の後、紙はりをする。
- 6 ままごと遊びの方を見ている。後からお絵かきする子に「前かけここにある。」と言いかけてやる。紙を取ってやり机に置く。おもちゃの洗濯機の所に行き、T「洗いましたか？」
- 7 置く。おもちゃの洗濯機の所に行き、T「洗いましたか？」
- 8 「あはははい今度は大丈夫ですよ。」とひもをほどいて渡す。箱積木の上の子どもにT「あなた達落ちないでね。これお二階？」と言い外に出る。砂遊びの子ども達にT「あすてきなものが出来たわね。」C「僕ね 白鳥のうち作ったの。その上にミルクやるの。」T「あらそう。〇ちゃん普通でないぼう？」C「普通のね、こういうね、ていぼうなんていらなんだもん。コンクリートだから。」T「あらそう。あれは何かしら？」子どもが水を二はいくんで来て流す。T「あああーあー流れて来るわよ、そこからあら、うまい具合に流れて来るわよ。あら穴あいているの。どこからでも水が流れてくるのね。」急に先生部屋に入り画用紙を出して何か書き、それを切ったり折ったり糊づけしたりして紙の白鳥を作る。それを持って砂場に来て、白鳥のお家にわらいつつ置き、だまって見ている。子ども達が白鳥に気がつきC「ああ白鳥が白鳥の家へ入った。」と笑ってみている。庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 9 の。その上にミルクやるの。」T「あらそう。〇ちゃん普通でないぼう？」C「普通のね、こういうね、ていぼうなんていらなんだもん。コンクリートだから。」T「あらそう。あれは何かしら？」子どもが水を二はいくんで来て流す。T「あああーあー流れて来るわよ、そこからあら、うまい具合に流れて来るわよ。あら穴あいているの。どこからでも水が流れてくるのね。」急に先生部屋に入り画用紙を出して何か書き、それを切ったり折ったり糊づけしたりして紙の白鳥を作る。それを持って砂場に来て、白鳥のお家にわらいつつ置き、だまって見ている。子ども達が白鳥に気がつきC「ああ白鳥が白鳥の家へ入った。」と笑ってみている。庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 10 置く。おもちゃの洗濯機の所に行き、T「洗いましたか？」
- 11 も水が流れてくるのね。」急に先生部屋に入り画用紙を出して何か書き、それを切ったり折ったり糊づけしたりして紙の白鳥を作る。それを持って砂場に来て、白鳥のお家にわらいつつ置き、だまって見ている。子ども達が白鳥に気がつきC「ああ白鳥が白鳥の家へ入った。」と笑ってみている。庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 12 紙の白鳥を作る。それを持って砂場に来て、白鳥のお家にわらいつつ置き、だまって見ている。子ども達が白鳥に気がつきC「ああ白鳥が白鳥の家へ入った。」と笑ってみている。庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 13 わらいつつ置き、だまって見ている。子ども達が白鳥に気がつきC「ああ白鳥が白鳥の家へ入った。」と笑ってみている。庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 14 がつきC「ああ白鳥が白鳥の家へ入った。」と笑ってみている。庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 15 庭を歩いて鉄棒の方に行く。二人の子どもにおいかけられ逃げる。おいつかれて手をつなぎ、ぐるぐるまわる。鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 16 鉄棒の方に行き鉄棒の上にする。C「前は出来るけど後は出来ない。」T「そうお。」と会話を続けつつ子ども達の方を見ている。鉄棒からおりて歩くとなまされる。C「やってみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。
- 17 てみてやってみて。」T「やってみるわよ。」鉄棒をする。

18 子どもが手をつなぎ山の上へ歌いながらつれて行く。他の組  
19 がそこで二組に分れて、約十米先の壁をきわつてもどるゲー  
ムをしている。子どもが鉄棒の上ですわり手を離してみせ  
る。先生も鉄棒の上に乗る。他の組のゲームを「はしれはし  
れ、がんばれがんばれ」と手をたたきながら見る。

20 その先生と話をし、笑いながら部屋に帰る途中で、また別  
21 の先生との話。部屋にもどつて来て実習生との話。絵の方を  
22 見て「じゃこれおしまい。」と言ひ絵をほし、かわいたもの  
23 を重ねて整理し、おはじきをしている子ども達の方に行く。

24 じゃんけんしておはじきを始める。C「じゃんけんはい。」  
T「あら負けちゃった。」C「入れて。」T「今度一回、この次  
から。」C「どるの。」T「一つきりとれないの？」子どもおは  
じきのルールを説明する。

25 次々に子どもが来るので何度もじゃんけんをする。子ども  
26 がいろいろと話すのをきく。じゃんけん続く。先生がルールに  
27 ついて質問するのに子どもがいろいろと答える。T「そんな  
ものもやさしいわね。なかなかとれないわね。」C「先生」先生  
の番なので呼ぶ。T「先生ぬかしていわね。」C「じゃ僕やめ  
る。」T「あゝあ。」立ち上り砂場の方へ行く。T「何です  
か。おいしそうだわ。」と遊びを見る。砂で人の形を形り、  
小さい石で眼をつけている子にT「おめめつけるのね。似て  
ますね。園長先生に見せてあげるといいわ。〇ちゃん一人で  
作ったの？」C「うん」T「あああれはお靴ですか、いいお  
靴ですね。はっぱのスカートすてきじゃない。」まだ絵を書

30 いてない子が、C「先生書く、ぼく。」T「はい書いてちょ  
うだいな。」絵の方に行く。絵を見て整理する。子どもが先  
31 生を呼ぶが仕事をしていた聞こえない。C「先生何か色が  
ついてるの黒板に。」T「ああそう。」とふいてあげる。お  
はじきを片づけつつ「これままごとにししないでごちそうと  
違つて考えましようね。そうするとみんななくなっちゃう  
32 から。」と注意する。積木遊びの子ども達もスクーターだと  
遊んでいるのを見て「スクーターですか、あらほんとだ。」  
33 ままごとの方に行き自分がままごと遊びの座敷にすわりち  
らかりすぎているのを注意し片づけを手伝う。T「ごちそ  
うがちらかつていますから、片づけましようね。それでは  
34 また作つて下さいね。」C「こつちが洗濯屋さんよ。」T「洗  
濯屋さんなの。洗濯屋さんならここへ洗濯機を置いて洗う  
35 物を持つて来る。」積木遊びを見、墨絵をはずす為に並べて置  
36 く。砂場をちよつと見て椅子を並べる。子ども達と一しょ  
37 に外に出て、すべり台の所でここにこしつ会話。子ども  
38 達と四人でじゃんけんし、きおに、がはじまる。急いで木に  
39 つかまる。片手は木につかまつたまま子ども達の方を見て  
笑う。男児が先生に手を見せ、それを見る。

40 C「先生〇ちゃん呼んでいる。」子どもの方を見る。スベリ  
台の子の靴を並べたりつりわにつかまっている子をおして  
41 あげる。C「先生ひくくして。」つりわを低くしてあげ、大  
42 急ぎで木につかまる。おにの子の方を見つ走つて行つて  
自動車につかまる。おにの子どもにつかまれ鬼になり男児

43 を追いかけて、T「つかまえたつかまえた」C「先生入れて」  
 T「○ちゃんどじゃんけん」また木につかまる。別の子ども  
 が入れてと来る。じゃんけんを見ながら離れた所の木に移る。  
 44 綱を持ってすべり台をのぼっている子どもを見たり、子ども  
 と一しょにとり木に逃げたりする。  
 45 木にさわって子どもと話。  
 T「誰おに？」C「先生のおに。」先生うなずき「ホーラつか  
 まえた」とつかまえる。何度かそのようなことをくりかえ  
 46 す。T「このへんのほりすごいすごい。」と逃げる。遠い木  
 47 まで走って行きつかまる。二人の子ども先生の手にぶらさが  
 48 る。T「この鉄棒(自分の腕のこと)おかしいわね。だめー  
 だめねこの鉄棒は。いちどきには、いっばいじゃどうしても  
 49 だめなのよ。」子どもとのおにごっこ続く。いきおいよく逃  
 げて部屋の方に。  
 50 T「これだつて木でしよ、じゃいいじゃない。」庭を見まわ  
 51 し、水をまく。おにごっこをしたり、水まきをしたりする。  
 52 水まきをする子に「まわりにまいて。」マンホールの丸い木  
 53 の穴に乗り、木の所まで走って行きつつ子ども達の動きを見  
 ている。「ホホホ体当りだ、こちらはおに。」C「誰おに？」  
 先生は水まきをしている子どもの方を見て答えないが、  
 54 他の子どもがそれに答える。水まきの子どもに注意している  
 55 時におににつかまえられ、子ども達を追いかける。C「先生  
 入れて。」じゃんけんをし、相手がおにになり先生逃げる。  
 水を一ヶ所にまきすぎたので、そこに石をかぶせる。少し水

56 をまきバケツをしまふ。部屋の中を片づけて職員室へ行く。  
 集合の合図の音楽(※音楽はじまると、どの組も自分の部屋の前の庭  
 57 に並ぶことになっている。)がなり靴をはき外に出て砂場の道具を  
 片づけ、エプロンがよごれてしまっている子どものエプロ  
 58 ンをぬがせる。子ども達部屋の前に一列に並び先生が先に  
 59 立って歩く。自動車を少し移動させ、円を作る。音楽に合  
 わせて行進するのを見ている。他の組の子ども二人が離れ  
 た所にいる。T「僕、さがしていらっしやるわよ。二人い  
 ないないって言っているわよ。」  
 11・0 マイクで体操への導入がある。T「みんな忘れた？ 思い  
 出す？ ○ちゃん大丈夫？」お花の体操はじまり、先生も  
 1 いしょにする。体操の音楽に合わせて、時々教える。T「は  
 2 いはいまんなかの方へ。」T「うしろ見て、はいうしろ。」  
 子どもを見つつ実習生にトンネルを作るよう合図する。子  
 3 どもはトンネルをくぐりぬける。体操終了、マイクの誘導  
 「Xのところを先生に教えていただきましょう。トンネル  
 4 になる人決めていただきましょう。」T「お当番さんがいい  
 わ。向うは？」二人を組ませる。C「わあ僕うれしいな  
 5 あ。」T「トンネルになって下さい。くずさないようにその  
 中をかけあるいて下さい。」もう一度体操はじまる。  
 6 子どもと一しょに体操をする。となりの子の手をとって  
 7 教える。子ども達で作ったトンネルの方を見る。体操が終  
 8 りマイクで○のところを教えてもらうようにとのことで、  
 子ども達と一しょにやってみてから部屋に入る。出て来て

- 9 子ども達の所にもどり、インディアンの歌になる。子どもわ  
あわあと喜び動く。
- 10 円の中で首をふりながら歩き、中で行動する。急いで部屋に  
入りレコードの方に行き出て来る。子どもを見ながら先生は  
11 円の外です。音楽終り解散する。部屋に入りまご道具  
12 や椅子の片づけをする。T「女の方おまごどね。」水道の所  
13 を片づけ、絵の紙をそろえる。C「先生磁石どこにあるの？」  
14 T「え？」C「磁石」T「あ、磁石は箱があるのよ。」積木や  
15 磁石を片づけ、出来上った墨絵を持って職員室へ。他の先生  
16 との話。T「あの輪のような磁石(馬てい形の磁石)しらない  
17 い？」C「○ちゃんが持っていた。」T「○ちゃんがないない  
18 ってきがしていたんだけど。」机の上に展示してある夏休み  
中の子どもの作品をいじっている子に「いじらないようにし  
てね。いいけどきこれちゃんとしてよ。」磁石を使っていた  
子にT「それねえ、ちゃんと持って来なければいけないね。  
19 こういう形のちよつと男の方外へ持っていたのだけ。」C  
「○ちゃんかしらないよ。」C「それが○ちゃんいない。」T「そ  
う、じゃきつと今さがしにいらしたのよ。じゃ男の方おかえ  
りのお仕度、女の方も出来たかしら。女の方も手伝いまじょ  
う。それじゃおかえりのお仕度して下さいね。」子どもが磁  
石をみつけて部屋にもどる。T「あった？ よかったわね。  
どうしたらなくならないでしょうね。」砂場を見る。
- 20 部屋の中を見つつ歩く。エプロンや洋服をたたむ。磁石を片  
づける。C「先生やぶけちゃった。」おはじきの袋やぶける。
- 21
- 22 T「おやおややぶけちゃったのね。何かに入れましたよ。こ  
うして落ちるといけないから。」部屋の中を歩きまわりつつ  
23 子ども達を見る。ピアノの所に行き楽譜を出す。ゆりかご  
の歌を静かに弾く。子ども静かにする。T「さあお休み(夏  
24 休み)がすんだらおやすみ(静かな曲を聴きつつ眼をつぶ  
り静かにする)が下手になったかしら。」時々子どもを見  
つつ弾く。T「誰がお上手にねむってるでしょう。○の方  
お上手だわ。」
- 25 ピアノの曲少し変り、C「うわ！眼がさめた。」T「じゃ  
ね、さっきレコードできれいなお声で歌っていらしたわ  
ね。みんなあの歌知ってるわね。じゃ歌いましょう。」十  
26 人のインディアンの歌始まる。T「あのね、しどりふたり  
かしら？」ひとりふたりって歌っていらしたでしょう。  
しどりって言わないわね。ひね。また歌う。T「ああ今度は  
27 いいわね。今度はちゃんとひとりってきこえましたよ。イ  
ンディアンのお好きなのがあるでしょう。あれで歌って下  
さい。きれいなお声でね。」子ども、口に手をあてて、イ  
ンディアンのまねをして歌う。T「今日はきれいなお声だ  
28 ったわね。じゃ女の方ね。」女の子歌う。T「男の方もやり  
たかったから一しよにやっちゃったのね、男の方のインデ  
29 イアンの方やって下さい。そうね。今日はきれいにきこえ  
ました。みんなでもう一度ことばで歌いましょう。」歌う。  
T「お友達かぞえてちょうだい。」十人のインディアンの曲  
にあわせて数える。T「あのね、ひとりふたり(あちこち

の友達をどびどびに数えること)でなくて、お友達順番に数える方がいいわね。たいへんだものね。それでもいいけど。」曲に合わせて歌う。T「ひとりのお机のお友達十人いた?」C「この机十人。」T「じゃちょうどよかったでしょう。」C「八人。」T「たりなかったかたはお友達のお机の方も数えましょうね、じゃもう一回。」曲に合わせて歌う。

30 「ちゃんと数えられました? あらそう。」T「今度はね、

みんなの知らないお歌。○ちゃん今度違うお歌をするからお手々たいて下さい。」子ども手をたたきつつ聞く。T「ああ

31 そうね。いろんな型でゆっくりたいた方もあるし、タンタンタンて方もある。これはあそこに書いておいたんですけれど、お帰りが近いから明日また教えてあげるわね。○ちゃん、×ちゃん、お嬢さんかしら。水筒をさげて坂道かけあが

るお歌なの。じゃおせなまっすぐにしましうね。」子ども同志で雑談している机にT「ここは何か御用があるらしく、お話してるわ。おせなかのぼして、背が高くなるようにして下さい。こんなに曲げていると、早くおじいさんやおばあさんになっちゃうものね。ごもんの所気をつけてちょうだいね。ちゃーって走ったりお友達やおむかえの方と離れないように。お当番の方お願いします。」子ども達は部屋の前

34 に並び玄関の方に行き、一人ずつあいさつをして帰る。

× × × ×

## 保育者の立場

堀合文子

私共は幼児と毎日生活している。一しょに遊んだり、笑ったり、時にはおこったり、困ったり。常にこれの繰り返しである。家庭の母親のひざから幼稚園というわくの社会へとびこんで来た幼児を、いかに迎え、いかに生活し、経験させて小学校へおくり出したらよいか。

これは誰しも考え、研究し、悩んでいる事であり、深さは深く、むずかしい。

相手が幼児であることと、指導が教科でないことがより私共をむずかしく、悩ましてくれる。また相手が幼児のため、いかにようにも過ごせる。

しかし私共はいろいろあるその指導の中でも、将来のある幼児のためには、最良の適切なる指導を与えてあげねばならないと思う。

時代が進むにつれて子どもたちもいろいろの面で発達がいちじるしい。幼児の教育も常に教師が研究し、幼児をみつめ、時代、その時に適切な指導がのぞましいが、幼児期はやはり幼児期にすべき経験があり、小学校の縮小のような経験はさけるべきではないだろうか。